

法話

ミズスマシ

慈悲に目覚める人生は
空しく終わらない
本願寺布教師 高師 哲量 師

農民詩人として宗教的な詩をたくさん残された村上志染さんの詩です。

方一尺の天地
水馬しきりに 円を描ける
なんじ いずこより来たり
いずこへ旅せんとするや?
ヘイ! 忙しくおまして
ナ!

方一尺、一辺が30センチあまりの水たまり。そこを自分の世界として、どこから流れしてきたのか、ミズスマシがせわしなく動き回っています。お前さんはどこから来て、どこへ行くとうとしているのかね。まもなく干上がってしまう狭いその水たまりの中で、そのいのちを終わってゆかねばならないのだよ、という問いかけに返ってきた答えが、「忙しくてそんなこと考えていません」というものでした。ミズスマシに「なぞらえて、人のいのちの意味と行方を問うているのですね。ミズスマシに

比べればはるかに長い時間と広い空間を生きているのが私たち人間ですが、肝心ないのちの来し方、行方、そしてそのいのちのいみをとらねばならないのなら、このミズスマシと大差ないではないですか、と村上さんは問いかけます。せめて、人と生まれたこのいのちの意味、詩の意味の決着をつけさせていたただかねば、いただいたいのちにあまりに申し訳ないことです。

自分しか見えない

とところで、人間の知恵は、自分の見た世界、経験した世界にしか及ばないものではないか。それを見ても自分を中心としてしか見ていない世界です。こんなことがありました。36年前の春、私は結婚式を挙げました。その時、参列予定だった母方の祖母が体調を崩し、大事を取って入院したと聞いたので、式の前々日、私は妻と二人で母の実家のある石川県加賀市の病院へ見舞いに行きました。「周りの勧めもあって入院したけど、あさつての結婚式には、病室から福井の方を向いて、お念仏しながらおめでとうと手を合わせてお祝いさせてもらいますよ」と温かいお祝いの言葉をかけてくれた

祖母でした。私たちが家族は翌々日の結婚式、さらに翌日の御門徒さんへの披露と、慌ただしい中にも皆様のご祝福をいただきました。ところが、その頃を見計らったように、かかった母の実家からの電話、本当のことを知らず、底に引き込まれたのです。

私たちが見舞ったその日、様態が急変して祖母は往生を遂げていたのです。叔父の深い配慮と思い切った決断により、「通夜・葬儀の日取りは延ばすから、結婚式の披露宴に呼ばれている人は何事もなかった顔をして参列するように」という通知が親戚に回されていきました。本当のことを知らない私たちは、幸せそうに振る舞っています。叔父をはじめとする母方の親戚は、その私たちの姿にどれだけ胸を痛めたことでしょうか。その電話の後、とるものもとりあえず、それまで延ばして下さっていた納棺の儀にかけつけ、祖母の枕辺に座りました。結婚式、披露宴を待つがたく、穏やかに済ませせてやりたいというあのときの叔父の配慮には、今でも心から感謝の思いでいっぱいです。私たちが自分が見た世界しか見えていない、ということ、痛切に教えられた、厳しく

も尊い体験でした。

人生に確かな意味

生と死を平等に見わたせる、まことの智慧を自らの上に体現された如来様のまなざしに、は、私の生き様が危なっかし、く哀れで、胸を痛める姿として映ったのです。私のいのちの行方を本當に案じ、胸を痛めて下さる阿弥陀様を、慈悲の親さまとして、お念仏の先輩方は仰ぎ慕ってこられました。自分にかかられたお慈悲の温かさ、確かさに心動かされた人は、そのまま慈悲の人へと育てられてゆくのでしよう。慈悲に目覚めるためにこの世に生を受け、そしていのち終わっても、お浄土で仏さまと同じ働きをさせていたただくのだと知らされた人生は、決してむなしくおわることはありません。私のいのちはあなたのお慈悲に目覚めさせていたただくために賜っていたのですねと、自分の生と死に確かな意味を与えてくださるお慈悲の恩を、あらためてかみしめさせていたただくことです。(本願寺新報 平28年9月1日号掲載)

住職より

秋のお彼岸 報恩講ももうすぐです。

ご法事後の御門徒の皆さんとお話をすると、「昔はおじいさんと一緒に報恩講にお参りしました」とか「食事がおいしかった」、「雰囲気が好きだった」等とよく伺います。

それ以前も、現在まで、毎年欠かさずに報恩講をお勤めています。

どうぞ、久しぶりにお参りにおいでになりませんか！ また、一度もおいでになったことが無い方も、お参りにおいでになりませんか！ 御門徒様同士のお話も楽しいですよ。

伝灯奉告法要

10月1日から本山で、第25代専如御門主の伝灯奉告法要が始まります。

教誓寺の所属する芝組では、10月6日のご法要に総勢一五〇人でお参りに参ります。教誓寺からは、御門徒さんと住職夫妻の五人で参加します。報恩講で写真などご披露できればと考えています。

教誓寺

法要のお知らせ

秋期彼岸会法要

9月22日(木) 秋分の日

○法要 午後2時より

ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。ご一緒にお経を上げてお勤めいたしましょう

御彼岸の期間は

9月19日(月)～25日(日)です。

報恩講法要



報恩講は、浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。宗祖親鸞聖人が一二年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。本山では、一月に宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。

教誓寺では、毎年十月の第四日曜日にお勤めして下さいます。

本年の報恩講も是非お参り下さい。

記

平成28年10月23日(日)

○法要 午後一時より

○法話 午後一時四〇分頃から

講師 本願寺派布教使

世田谷組 正蓮寺前住職

竹岡 郁芳 師

○時間があれば 腹話術などご披露したいと考えております。

○報恩講料理(お斎・昼食)の用意は、午前11時頃から出来ますので、早めにいらして召し上がって下さい。

○来年の浄土真宗カレンダー

をお持ち帰り下さい。○お参りの時には門徒式章をご着用下さい。

教誓寺維持会費について

再 本年度も維持会費をご納入下さり有り難うございます。これからの方も早めにお願ひ致します。

その他

先月、高圧洗浄機でお墓の掃除を試してみました。跳ね返る水しぶきで濡れになりましたが、お墓にこびりついた苔をきれいに落とすことが出来ました。

すべての墓石に有効とは言えませんが(古い・表面の痛んだ石には出来ません)、希望があれば高圧洗浄のお掃除をいたします。

東京の水不足も台風のおかげで解消しましたので、後ろめたくなく水を使うことが出来ます。また、気温の高いうちに実施したいと思っておりますので、早めにお申し出ください。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073

東京都港区三田 一十二一
〇三(三四五)二二九

kyousei_ji@js4.so-net.ne.jp
